

「水と土の文化」に遊ぶ

新潟市長(新潟県) **篠田 昭**
Akira Shinoda



地域の明日をデザイン

市長になる前は30年ほど地元の新聞社に勤務し、取材記者や論説・編集委員をやっていました。新潟県内の各地で地域づくりに取り組む方の話を聞き、その夢を伝えたり、地域の明日を勝手にデザインしたりする仕事が好きでした。

そんな時には努めて地域の歴史や伝統、風土について聞くことを心掛けていました。また、学芸部長を担当したときから、そこにもう一つ、文化の要素が加わりました。地域の明日を描くには、その地域の歴史や地形、文化に根ざした構想が重要との思いを記者時代に実感し、それを基に地域の未来をさまざまな記事にしたことは忘れられない思い出です。



新潟まつり〜日本最大級の民謡流し〜 今年は8月3日(金)に開催

記者時代の体験を活用

10年前、市長になると明日のデザインづくりはなかなか簡単ではありません。特に新潟市は平成になって3度の合併で81万都市となり、本州日本海側で初の政令指定都市に移行した都市です。千年以上の歴史を持つ港町と、日本一の美田地帯が一緒になったわけで、新・新潟市の特性をどこに見出すべきかの議論も異論百出の状態でした。

私には大合併の協議を引き継ぎ成就させる責任と、新・新潟市のアイデンティティー探しの役割を同時に担わねばならない状況でした。「しんどい仕事は根を詰めてやるより、楽しみながらやる方がいい」と聞き直り、合併地域の歴史や地形、文化などを大いに学ぶことにしました。

「せっかくなので勉強したものは本にしよう」と考え、大合併を前にした平成16年、「新潟力―歴史から浮かぶ政令市像―」という本をまとめ、結構多くの市民の皆さまからお読みいただきました。

次に挑戦したのが「新潟市観光文化検定」(通称ニイガタ検定)です。これは新潟市商工会議所さんが「新しく誕生した新潟市のことについて、市民に広く知ってもらおう」と手がけてくれた事業です。「小さいながらも広告塔に」との気持ちもあって、初年度の3級から受験しました。



前回の「水と土の芸術祭」でも作品が「(通称)バンブーハウス」として大人気だった王文志氏の「浴火鳳凰(よっかほうおう)」が先行公開中

知ることと愛すること

ニイガタ検定を受験することで「知ることとは愛することの始まり」を実感しました。「新潟の良さや面白さをさらに多くの人に伝える観光ボランティアガイドを育てることができました。

2年目の2級までは1000の問いに選択肢から答えればよいのですが、1級はすべて記述式で、なかなかの難関です。私も執務の間を見てはさまざまな歴史史料を読みあさり、間違いなく記述できるように漢字もあらためて確認しました。その甲斐あって合格率13%の中に潜り込むことができました。

成したらどうか」とのアイデアが次に浮かびました。新潟市はお城など地域を象徴する建物がない上に、歴史も浅いと思っ

「新潟市にはガイドをすることでいい」と全否定する一部の声を押し切り、観光ボランティアガイド養成講座を平成18年から始めました。新潟のまちなかは江戸時代からの湊町の枠組みがそのまま残り、案内人がいると実は大変に面白い街なのです。

平成20年に観光ボランティアガイド養成講座で育った方々が「新潟シティガイド」を立ち上げ、いまでは58人のガイドさんにより、各地でまち歩きが行われています。

こんな取り組みを進めているうちに新潟市の特性が私なりに分かってきました。「新潟市の特徴的な数字を一つ挙げる」と言われれば、私は食料自給率だと思います。政令市では一桁が多い中で、新潟市の自給率は63%です。水田面積は鳥取県や高知県などを上回っています。

この豊穡の大地をはぐくんでくれたのは日本一の信濃川、それに次ぐ水量を持つ阿賀野川という2つの母なる大河です。「日本一大量、かつ多様な水と土から生まれた地域が新潟市だ」と、ようやく思い至りました。日本一の水と土が相手ですから、水との闘いも日本一過酷なもので、その疲れを癒やすためか市全域に爆発的



新潟市の食料自給率を支える豊穡の大地〜日本一の「信濃川」など多くの「水と土」の恵みが新潟を形作る

な祭りや踊り、素晴らしい民謡が伝わっていたのです。

芸術祭ガイドで自己満足

「新潟市にはほかのどこにもない、水と土の暮らし文化を持っている」このことを市民にもっと自覚してもらい、地域のアイデンティティーに育てたい―そんな気持ちを込めて平成21年に「水と土の芸術祭」を開きました。アートを市内全域に点在させ、それを訪ね歩くうちに素晴らしい水辺や集落に出会えるようにしました。市民にとっては新潟の「再発見」です。訪れた方には地域の伝統文化に触れてもらう「地域プロジェクト」にも力を入れました。

このとき、好評だったのがボランティアガイドが同乗するバスツアーでした。代表



前回の「水と土の芸術祭」でガイドを務めた筆者

的なアートを見て回れる上に、地域の歴史なども聞けるからです。私も数回ガイドを務めました。ニイガタ検定などで仕込んだ知識をひけらかす絶好の場となる上に、芸術祭のどこがうけて、どこに改善点があるかを知る良い機会にもなりました。

拍手は温かく、充実感が味わえました。

こんな形で記者感覚を忘れずに、歴史と文化の世界に遊びながら、市の活性化策にも活かさせていきたいです。

今年12月下旬まで2回目の「水と土の芸術祭」を開催します。今年も何回かはガイドを務めるつもりです。ぜひ新潟の「水と土の文化」に触れてみてください。